

静岡大学附属図書館概要

2022

はじめに

附属図書館長
坂本 健吉



附属図書館は静岡本館と浜松分館の2館体制をとり、両キャンパスの教育と研究を支える学術情報基盤を担っています。学術情報資源整備、学習支援、研究支援、社会連携の四つの領域を重点的にサポートするため、様々な事業を実施しています。この『静岡大学附属図書館概要2022』は、その事業内容と附属図書館の現状を分かりやすくまとめたものです。

さて、2020年から世界中を混乱に陥れているコロナ禍にあって当館の利用は大きく制限されており、利用者の方々には多大なご迷惑をおかけしております。現在も館内の閲覧席や各施設・設備は数を減らして運用していますし、長時間の滞在は避けるようお願いもしています。本来の大学附属図書館としての役割を十全には果たせておらず、館員一同、心苦しく思っていますが、未経験の事態でもありなかなか有効な打開策は打ち出せていないのが現状です。しかし、その中で模索するうちに、実際に足を運ばなくても様々な図書館の機能を使うことが出来ないか、これまでより多くの電子情報にアクセス可能にはならないだろうかなど、いくつか新しい方向性も見えてきました。例えば、昨年度から学生向け電子書籍の充実を図っており、既に様々な分野の書籍へネットでアクセスできるようになっています。学生の方からのリクエストもお受けしておりますので、ぜひご活用下さい。

また、ここ何年ものあいだ附属図書館が抱えている問題に電子リソース（学術雑誌やデータベース）の価格高騰があります。これは当館だけでなく日本の大学附属図書館全てに深刻な影響を与えている大問題ですが、目下のところ有効な解決策は見つけることが出来ずにいます。しかし、図書館の現在の機能を可能な限り損なわないよう、最大限の努力をしておりますので、今後とも利用者の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

主要室面積及び座席数

	階 数	室 名	面 積	座席数	備 考
本 館	1 階 1,380㎡	書庫 その他	1,054 ㎡ 326	2 席	一部集密書架
	2 階 1,305㎡	書庫 その他	1,192 113	3	
	3 階 1,495㎡	書庫 雑誌閲覧室 個人ブース 印刷室等 その他	839 334 24 57 241	6 28 6	開架雑誌
	4 階 1,533㎡	開架閲覧室 ラウンジ 複写室 サービスカウンタ ギャラリー 館長室 事務室 その他	546 103 13 84 44 49 382 312	126 36 20	参考図書、新聞コーナー、PCワークエリ ア、視聴覚エリア、国際交流エリア
	5 階 1,503㎡	開架閲覧室 ハーベストルーム（第2閲覧室） 地域・特別資料室 マイクロ資料室 その他	821 244 95 30 313	202 74 1 2	開架図書
	6 階 563㎡	図書館会議室 セミナールーム その他	119 125 319	48	
	7 階 248㎡	書類庫等 その他	43 205		
	本館合計		8,027 ㎡	554 席	書架延長 27,130m 収容可能冊数 753,625冊

浜 松 分 館	1階 1,759㎡	エントランス・ラウンジ ギャラリー 図書館事務室 分館長室 書庫 新聞コーナー・新着雑誌コーナー PCワークエリア 開架図書閲覧室 その他	164 54 107 18 258 128 191 453 386	38 席 24 52	集密書架 開架図書、文庫、新書
	2階 2,461㎡	グループワークエリア セミナールーム・CALL教室 書庫 グループ学習室 学習エリア 開架図書閲覧室 その他	958 145 354 61 267 464 212	225 52 20 40 53	パーソナルワークエリア、地域産業史エリ ア、多文化交流エリア、視聴覚エリア、 Graduates' Hub 開架図書 参考図書、大型本 集密書架
	3階 511㎡	交流サロン 開架雑誌閲覧室・個人ブース その他	83 304 124	2 25	開架雑誌
	浜松分館 合 計		4,731 ㎡	531 席	書架延長 12,709m 収容可能冊数 353,027冊

合 計	12,758 ㎡	1,085 席	書架延長 39,839m 収容可能冊数 1,106,652冊
-----	----------	---------	-----------------------------------

● 電子資料等

○ 主な電子ジャーナル

- Science Direct(エルゼビア社)※フリーダムコレクション契約
利用タイトル数 約2,300 (バックファイルは概ね1998年から利用可能)
- Wiley Online Library (ワイリー社)
利用タイトル数 約1,400 (バックファイルは概ね1997年から利用可能)
- Springer Link (シュプリンガー・ネイチャー社)
利用タイトル数 約1,700 (バックファイル契約誌は創刊号から、その他は2000年から利用可能)
- American Chemical Society Full Package (アメリカ化学会)
利用タイトル数 約60
- nature(本誌は1987年から、Nature Digestは2007年から利用可能)
- Science 1880年～
- JSTOR Arts & Sciences I Archive Collection(経済学、歴史学、政治学、社会学、言語学、教育学など
人文社会科学系のほか、環境学、数学、統計学 計117誌のアーカイブ)

○ 主な電子ブック * 購入タイトル数は令和4年3月31日現在

- Cambridge Core(購入タイトル数 155)
- EBSCO eBooks(購入タイトル数 約150、著作権フリー約3,500)
- emerald insight(Business Management & Economicsの全タイトル(1991-2012)(購入タイトル数 708)
- Infobase Publishing eBooks(購入タイトル数 246)
- KinoDen(紀伊國屋書店)(購入タイトル数 792)
- Maruzen eBook Library(丸善雄松堂)(購入タイトル数 2,316)
- ProQuest Ebook Central(購入タイトル数 40)
- Science Direct Methods in Enzymology(2009-2013年 224点)ほか(購入タイトル数 312)
- Springer Link eBooks(購入タイトル数 7,000以上)
- Saddleback(購入タイトル数 70)
- Wiley Online Library(購入タイトル数 37)

○ 主なデータベース

- CiNii(論文や図書・雑誌などの学術情報検索データベース)
- Web of Science(全分野における主要な学術雑誌の論文情報・引用関係データベース)
- Journal Citation Reports(主要学術雑誌評価データベース)
- MathSciNet(数学関係文献データベース)
- SciFinder-n(化学関係文献データベース)
- PsycINFO(心理学関係文献データベース)
- Lexis(国外法律情報文献データベース)
- LEX/DBほか(国内判例関係文献データベース)
- 朝日新聞クロスサーチ(朝日新聞記事データベース)
- 静岡新聞データベースplus日経テレコン(静岡新聞及び日本経済新聞記事データベース)
- 中日新聞・東京新聞記事データベース <浜松キャンパスのみ>
- 官報情報検索サービス(官報の電子版)
- JapanKnowledge Lib(「日本大百科全書」などの事典・辞書横断検索データベース)
- 化学書資料館(日本化学会編集の図書全文検索および化合物検索データベース)
- JSA ライブラリサーバ(JISの電子版) <浜松キャンパスのみ>

● 学術リポジトリ

1. 資源タイプ別コンテンツ数

(令和4年3月31日現在)

区分	計	前年度末計
Journal Article(学術雑誌論文)	3,151	3,005
Thesis or Dissertation(学位論文)	826	775
Departmental Bulletin Paper(紀要論文)	6,759	6,501
Conference Paper(会議発表論文)	372	290
Presentation(会議発表用資料)	21	20
Book(図書)	77	74
Technical Report(テクニカルレポート)	313	313
Research Paper(研究報告書)	1,491	1,411
Article(一般雑誌記事)	35	35
Preprint(プレプリント)	1	1
Learning Material(教材)	22	20
Data or Dataset(データ・データベース)	6	6
Software(ソフトウェア)	0	0
Others(その他)	654	595
合計	13,728	13,046

資料統計

1. 受入数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

区分	図 書				雑 誌			
	和 書	洋 書	計	前年度計	和 雑 誌	洋 雑 誌	計	前年度計
本 館	6,542	430	6,972	6,468	1,009	107	1,116	1,260
浜松分館	2,867	115	2,982	2,493	214	22	236	245
合 計	9,409	545	9,954	8,961	1,223	129	1,352	1,505

2. 蔵書数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

区分	図 書				雑 誌			
	和 書	洋 書	計	前年度計	和 雑 誌	洋 雑 誌	計	前年度計
本 館	652,116	243,906	896,022	902,936	11,639	4,631	16,270	16,251
浜松分館	207,330	99,395	306,725	303,649	2,486	2,000	4,486	4,396
合 計	859,446	343,301	1,202,747	1,206,585	14,125	6,631	20,756	20,647

3. 視聴覚資料数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

区分	マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	ビデオテープ	CD-ROM	CD/LD	DVD	その他	計	前年度計
本 館	3,799	548	132	120	398	1003	92	6,092	6,120
浜松分館	1	0	4	8	22	397	22	454	441
合 計	3,800	548	136	128	420	1,400	114	6,546	6,561

4. 分類別蔵書冊数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

区分	本 館			浜 松 分 館			合 計	前年度計
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計		
0 総 記	55,985	7,916	63,901	17,047	4,376	21,423	85,324	84,585
1 哲 学	34,740	19,583	54,323	10,880	1,128	12,008	66,331	66,185
2 歴 史	83,517	12,403	95,920	9,096	616	9,712	105,632	105,171
3 社会科学	207,193	71,937	279,130	29,424	921	30,345	309,475	310,857
4 自然科学	75,183	58,488	133,671	52,446	52,845	105,291	238,962	239,808
5 技 術	33,561	5,036	38,597	57,299	31,119	88,418	127,015	126,846
6 産 業	41,394	7,937	49,331	3,083	161	3,244	52,575	52,718
7 芸 術	28,456	4,470	32,926	6,614	440	7,054	39,980	39,909
8 語 学	25,058	15,048	40,106	9,663	3,956	13,619	53,725	54,629
9 文 学	67,029	41,088	108,117	11,778	3,833	15,611	123,728	125,877
合 計	652,116	243,906	896,022	207,330	99,395	306,725	1,202,747	1,206,585

5. 図書館経費

◇令和3年度 運営関係経費	56,563千円	(前年度 56,115千円)
◇令和3年度 図書館備付資料費	142,729千円	(前年度 138,097千円)
◇令和3年度 その他の経費	4,261千円	(前年度 4,497千円)

● 利用統計

1. 開館日数等

(令和3年度)

(単位:日)

(単位:時間)

区分	年間開館日数			年間時間外開館時間数		
	平日	土/日・祝	総日数	平日	土/日・祝	総時間数
本館	230	50	280	469	410	879
浜松分館	230	50	280	469	410	879

2. 入館者数

※平成25、26年度及び平成29年度は、浜松分館改築工事（Ⅰ期、Ⅱ期）による閉館等の影響有り

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
■本館	214,806	210,775	194,627	185,439	53,821	83,105
■浜松分館	218,616	177,194	209,482	236,110	60,662	105,087
合計	433,422	387,969	404,109	421,549	114,483	188,192

3. 館外貸出冊数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
教員	■本館	5,013	6,614	6,412	6,582	5,658	6,775
	■浜松分館	1,034	1,207	1,760	2,043	1,952	1,978
学生	■本館	48,206	48,337	44,388	42,054	31,592	35,179
	■浜松分館	23,898	20,819	25,249	27,022	18,161	20,106
一般市民	■本館	836	1,077	994	860	14	0
	■浜松分館	577	530	689	909	2	0
本館計	54,055	56,028	51,794	49,496	37,264	41,954	
分館計	25,509	22,556	27,698	29,974	20,115	22,084	
総計	79,564	78,584	79,492	79,470	57,379	64,038	

4. ILL（図書館間相互協力）文献複写件数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
受託	■本館	1,519	1,340	1,308	1,242	1,239	1,562
	■浜松分館	371	446	380	274	208	364
受託計	1,890	1,786	1,688	1,516	1,447	1,926	
依頼	■本館	1,482	1,514	1,264	1,106	1,015	1,029
	■浜松分館	349	404	229	286	337	273
依頼計	1,831	1,918	1,493	1,392	1,352	1,302	

5. ILL（図書館間相互協力）現物貸借冊数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
貸出	■本館	987	1,092	890	935	1,038	1,192
	■浜松分館	151	183	165	178	243	250
貸出計	1,138	1,275	1,055	1,113	1,281	1,442	
借受	■本館	923	665	766	453	512	617
	■浜松分館	77	63	67	118	104	86
借受計	1,000	728	833	571	616	703	

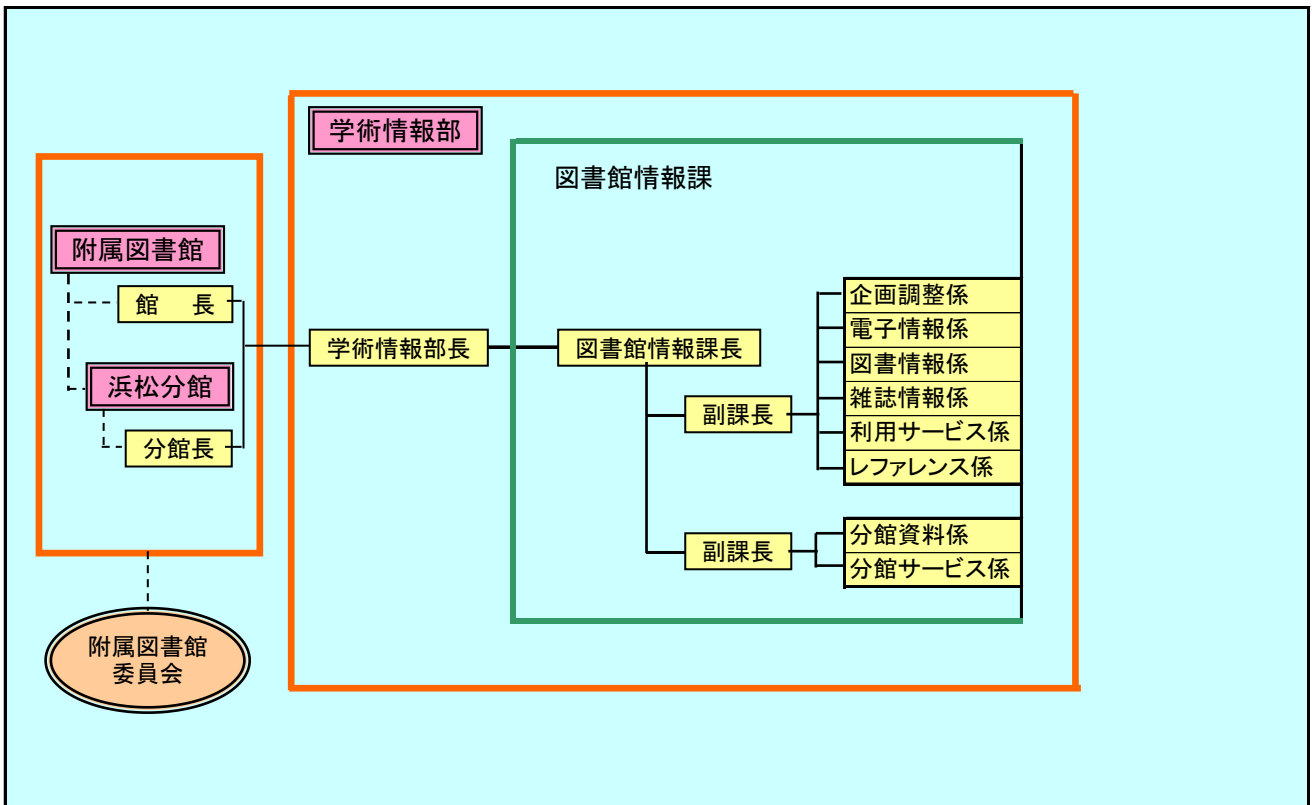
6. セミナー参加人数

※・・・在宅授業による実施

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	
本館	図書館利用セミナー(ベーシック編)	35	1,181	36	1,209	34	1,189	※	1,120	※	1,159
	図書館利用セミナー(アドバンス編)	30	665	28	646	24	624	※	713	※	597
	図書館利用セミナー-大学院生向け	2	37	2	31	6	49	-	-	2	39
	図書館利用セミナー(後学期)	2	36	5	186	4	151	8	164	8	158
	データベース講習会	8	267	6	169	7	105	4	61	4	81
浜松分館	図書館利用セミナー(ベーシック編)	14	789	27	793	20	803	※	770	※	769
	図書館利用セミナー(アドバンス編)	-	-	1	7	7	92	※	71	※	113
	データベース講習会	4	63	5	77	4	132	-	-	-	-

組織機構

1. 機構図・職員配置 ☆令和4年6月1日現在(実数)



2. 附属図書館委員会委員 ☆令和4年度

所 属	職 名	氏 名	備 考
館 長 (理 学 部)	教 授	坂 本 健 吉	委員長
浜 松 分 館 長 (情 報 学 部)	教 授	許 山 秀 樹	情報基盤センター運営委員会委員
人 文 社 会 科 学 部	教 授	西 川 義 晃	
”	教 授	安 永 愛	
教 育 学 部	准 教 授	名 倉 達 了	広報委員会委員
”	准 教 授	島 田 桂 吾	
情 報 学 部	教 授	SHEFTALL, M. G	
理 学 部	准 教 授	依 岡 輝 幸	
”	准 教 授	田 阪 美 樹	
工 学 部	教 授	田 中 繁 一	
”	准 教 授	安 富 啓 太	
農 学 部	教 授	大 西 利 幸	
”	教 授	中 塚 貴 司	
教 職 セ ン タ ー	准 教 授	松 尾 由 希 子	
事 務 局	学 術 情 報 部 長	成 田 博	

沿革

1. 略年史

年 月	事 項
1949(昭24) 6	◇静岡大学創立(文理・教育・工学の3学部)
11	◇図書館規則を制定し、中央図書館は当分の間文学部に置き、各学部・分校の図書室は分室とし、図書館運営の協議連絡機関として新たに図書館委員会を設置
12	◇文学部図書館長が中央図書館長併任(中央図書館職員は事務長1、係員2)
1951(昭26) 4	◇県立農科大学が農学部(磐田)となり、図書館分室を設ける ◇同上分室建築工事竣工
1952(昭27) 4	◇教育学部三島教場の図書館分室を廃止し、教育学部(静岡)分室に統合
1955(昭30) 4	◇教育学部島田分校の図書館分室を廃止し、教育学部(静岡)分室に統合
1958(昭33) 12	◇中央図書館長選考規則を制定
1959(昭34) 9	◇中央図書館・分室を合わせて、附属図書館と改称 工・農・教育学部浜松分校に各分館を設置 事務機構は事務長1、係長3、係員7となる
1965(昭40) 3	◇教育学部浜松分校分館を廃止 ◇教養部西部教場(浜松)に教養部西部分室を設置 ◇附属図書館長が評議会の構成員となる
1966(昭41) 4	◇工学部分館を浜松分館と改称
10	◇附属図書館で教養課程指定図書制度を実施
1967(昭42) 4	◇教養部の大谷地区移転に伴い、臨時図書室(約5,000冊)開設
1968(昭43) 3	◇大谷地区に附属図書館の新館(RC-5 4,535㎡)が竣工
4	◇教養部西部分室を廃止し、本館に統合
9	◇附属図書館大谷地区に移転
1970(昭45) 1	◇附属図書館の広報誌「図書館通信」を創刊
1972(昭47) 3	◇浜松分館の新館(RC-2 1,471㎡)が竣工
1973(昭48) 4	◇農学部の大谷地区移転に伴い、農学部分館を廃止し、本館に統合 ◇参考調査係を設置し、4係となる
1977(昭52) 4	◇部課制を実施するとともに受入係を設置、2課5係となる
1978(昭53) 3	◇本館増築(RC-7 3,061㎡)竣工
1979(昭54) 11	◇本館の時間外延長開館(月～金 20:45、土 16:45まで)を実施
1980(昭55) 4	◇大谷地区各部局の自然系外国雑誌(149タイトル)本館に集中
1982(昭57) 3	◇本館にブックディテクションシステム装置導入
1983(昭58) 3	◇浜松分館増築(RC-2 1,035㎡)竣工
6	◇浜松分館の時間外延長開館(月～金 20:00、土 17:00まで)を実施 ◇浜松地区自然系外国雑誌(279タイトル)分館に集中
1984(昭59) 1	◇整理課に図書館専門員を配置
3	◇本館の耐震補強工事竣工 ◇本館書庫増築(669㎡)竣工
1986(昭61) 11	◇図書館業務用電子計算機(HITAC L470Xシステム)導入
1987(昭62) 6	◇図書館業務の電算化に対応するため、事務組織を変更 整理課受入係・整理係を廃止して和書係・洋書係とし、新たに学術情報係を設置、2課6係となる
1988(昭63) 4	◇「国立大学および国立短期大学の事務局等の部及び課に関する訓令」の一部改正に伴い、事務部の名称変更
6	◇利用者用コンピュータ端末による図書検索開始(開架全図書及び4月以降の新規受入図書)
1990(平 2) 3	◇本館視聴覚コーナー(4階)を開設
5	◇情報処理センターとの協力により、学内LANを利用したオンライン学内図書検索システム開始
10	◇本館外国雑誌閲覧室(3階)に無人入退館管理システムを設置、24時間利用可能となる
1991(平 3) 3	◇本館空調設備工事施工(5階)
4	◇静岡県公共図書館等の資料相互貸借に関する協定に加盟
1992(平 4) 1	◇本館空調設備工事施工(3、4階)
5	◇完全週休2日制実施に伴う土曜半日(午前)開館
1995(平 7) 5	◇附属図書館のホームページを開設
1996(平 8) 3	◇本館地方資料室を移転し、第2閲覧室に模様替
4	◇本館及び浜松分館土曜全日開館実施
10	◇創立50周年記念誌編集室開設(1999年迄)
1997(平 9) 10	◇本館視聴覚室を改修し、SCSスタジオ開設
11	◇静岡県大学図書館協議会設立、加盟 ◇「幕末・明治期古写真等資料展」開催
1998(平10) 3	◇CD-ROMサーバ導入 ◇浜松分館にブックディテクションシステム装置導入
7	◇本館第2閲覧室(ハーベストルーム)にパソコン18台を設置
10	◇事務再編に伴い、事務組織を変更 和書係・洋書係を廃止して資料受入係・目録情報係とし、情報管理課学術情報係をシステム管理係と改称して 情報サービス課に所属

年 月	事 項
1999(平11)	1 ◇本館書庫入庫時間延長 ◇「幕末・明治期肖像写真展」開催 3 ◇浜松分館AVルーム開設 5 ◇博士学位論文要旨のホームページ公開 9 ◇国際放送視聴コーナー開設 11 ◇「写真展 躍動する静岡大学の50年」開催
2000(平12)	4 ◇本館開館時間変更（月～金 9:00～22:00, 土 11:00～19:00）（試行） ◇浜松分館自動貸出返却装置導入 ◇本館新入生セミナーで「附属図書館利用セミナー」実施（試行）
2001(平13)	3 ◇本館自動貸出返却装置導入 4 ◇本館開館時間変更（月～金 9:00～22:00, 土 11:00～19:00） ◇浜松分館開館時間変更（月～金 9:00～21:00, 土 9:00～17:00）（試行） ◇本館・浜松分館新入生セミナーで「附属図書館利用セミナー」実施（試行） 10 ◇利用学生モニターの設置 11 ◇図書館総合整備計画（第一次）－「知と情報のコーディネーター」へ向けての策定
2002(平14)	2 ◇図書館業務用システム（NTTデータ NALIS）導入 3 ◇大学閲覧室の閲覧机・椅子の更新および閲覧室床カーペットの張替え等学習環境の整備 4 ◇図書館利用セミナーの実施（必修科目として正規の単元化） 10 ◇日曜・祝日開館及び土曜時間延長の本格実施
2003(平15)	2 ◇本館正面玄関の改修 4 ◇学外者への館外貸出サービスを開始 ◇浜松分館平日夜間開館時間を1時間延長
2004(平16)	4 ◇法人化に伴い、附属図書館事務部は新設の学術情報部として統合 図書館関係2課（情報管理課・情報サービス課）の組織内変更はなし
2005(平17)	1 ◇OBオフィス開設 6 ◇公開イベント「のぞいてみよう大学の図書館」開催 10 ◇課・係制からチーム・スタッフ制へ移行 図書館情報チームとなり、3スタッフ（図書館マネジメントスタッフ、学術資料スタッフ、利用サービススタッフ）で構成
2006(平18)	4 ◇図書館情報チームの改組 研究協力・情報図書チームとなり、2課長から1課長2副課長となる ◇静岡県立中央図書館との資料相互搬送開始 6 ◇おうだんくん（県内横断検索システム）へ参加
2007(平19)	2 ◇図書館業務用システム更新 3 ◇自動貸出装置増設 8 ◇地域目録講習会（図書コース）開催 9 ◇本館第2閲覧室（ハーベストルーム）拡張 ◇「静大図書館 Newsletter」創刊 11 ◇写真展「写真でつづる静岡大学の軌跡」開催
2008(平20)	4 ◇静岡大学学術リポジトリ（SURE）本公開 ◇事務再編に伴い、チーム名変更（研究協力・情報図書チームから図書館チームへ） 8 ◇附属図書館外部評価委員会開催
2009(平21)	3 ◇浜松分館旧機械室に電動書架設置 4 ◇入退館管理システム導入 6 ◇ライブラリーセミナー「蘇る安部七騎」開催
2010(平22)	4 ◇本館リニューアルオープン
2011(平23)	7 ◇事務再編に伴い、チーム・スタッフ制から課・係制へ移行 図書館情報課となり、8係（企画調整係、電子情報係、図書情報係、雑誌情報係、利用サービス係、レファレンス係、分館資料係、分館サービス係）となる ◇浜松分館改修工事竣工
2012(平24)	2 ◇図書館業務用システム（NTTデータ九州 NALIS）更新 4 ◇本館・浜松分館開館時間の変更（休日の試験対応期間9:00～21:00）（試行） 6 ◇学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定を締結（金沢大学、静岡大学、名古屋大学）
2013(平25)	3 ◇本館外壁改修工事竣工 4 ◇静大ID(学認対応)によるサービス開始(学外からの電子ジャーナル利用、myLibrary) 5 ◇附属図書館外部評価委員会開催
2014(平26)	8 ◇地域連携プロジェクト「キッズチャレンジ静岡図書館」を開催（12月にも開催） 10 ◇浜松分館リニューアルオープン（I期） 12 ◇「静岡大学附属図書館の使命」策定
2015(平27)	8 ◇地域目録講習会（図書コース）開催
2017(平29)	2 ◇図書館業務用システム（NTTデータ九州 NALIS）更新
2018(平30)	1 ◇静岡大学学術リポジトリ（SURE）を国立情報学研究所共用リポジトリサービス（JAIRO Cloud）に移行 6 ◇浜松分館リニューアルオープン（II期）
2019(令元)	5 ◇附属図書館外部評価委員会開催
2020(令2)	3 ◇新型コロナウイルス感染症への対応のため、施設・サービスを制限（～2022（令4）6.現在も状況に応じて対応中）
2020(令2)	4 ◇4.20～5.6は静岡本館、浜松分館とも臨時休館

2. 歴代館長・分館長

附属図書館長	氏名	所属	在任期間
	富田文雄	文理学部	1949.12.12 ~ 1952.12.11
	大室貞一郎	〃	1952.12.12 ~ 1954.12.11
	河内清	〃	1954.12.12 ~ 1958.12.11
	山田良之助	学長(事務取扱)	1958.12.12 ~ 1959. 8.31
	山岸五平	教育学部	1959. 9. 1 ~ 1961. 8.31
	島谷俊三	〃	1961. 9. 1 ~ 1963. 8.31
	宇野慶三郎	教養部	1963. 9. 1 ~ 1965. 6.30
	内藤晃	人文学部	1965. 7. 1 ~ 1967. 6.30
	兼岩芳夫	農学部	1967. 7. 1 ~ 1969. 6.30
	天野佳人	人文学部	1969. 7. 1 ~ 1971. 6.30
	石塚経雄	教養部	1971. 7. 1 ~ 1973. 6.30
	上野実朗	理学部	1973. 7. 1 ~ 1975. 6.30
	中沢正寿	教育学部	1975. 7. 1 ~ 1977. 6.30
	渡辺安夫	教養部	1977. 7. 1 ~ 1979. 6.30
	豊川卓爾	人文学部	1979. 7. 1 ~ 1981. 6.30
	細井寅三郎	農学部	1981. 7. 1 ~ 1983. 6.30
	大月卓郎	工学部	1983. 7. 1 ~ 1985. 6.30
	中村博保	教育学部	1985. 7. 1 ~ 1987. 6.30
	森口治生	理学部	1987. 7. 1 ~ 1989. 6.30
	水野秀夫	農学部	1989. 7. 1 ~ 1991. 6.30
	吉本健一	教養部	1991. 7. 1 ~ 1993. 6.30
	小澤康彦	人文学部	1993. 7. 1 ~ 1995. 6.30
	久保靖一	工学部	1995. 7. 1 ~ 1997. 6.30
	杉田泰一	教育学部	1997. 7. 1 ~ 1999. 6.30
	浅井哲也	理学部	1999. 7. 1 ~ 2001. 3.31
	大江泰一郎	人文学部	2001. 4. 1 ~ 2003. 3.31
	番場公雄	農学部	2003. 4. 1 ~ 2005. 3.31
	小和田哲男	教育学部	2005. 4. 1 ~ 2007. 3.31
	加藤憲二	理学部	2007. 4. 1 ~ 2013. 3.31
	高松良幸	情報学研究科	2013. 4. 1 ~ 2015. 3.31
	澤田均	農学領域	2015. 4. 1 ~ 2021. 3.31
	坂本健吉	理学領域	2021. 4. 1 ~

浜松分館長	氏名	所属	在任期間
	市川常男	工学部	1965. 4. 1 ~ 1976. 3.31
	松本欣二	〃(事務取扱)	1976. 4. 1 ~ 1976. 4.30
	井本文夫	〃	1976. 5. 1 ~ 1980. 3.31
	大月卓郎	〃	1980. 4. 1 ~ 1983. 6.30
	藤田郁夫	〃	1983. 7. 1 ~ 1987. 6.30
	大山襄	〃	1987. 7. 1 ~ 1989. 6.30
	藤田郁夫	〃	1989. 7. 1 ~ 1991. 6.30
	清水孝仁	〃	1991. 7. 1 ~ 1995. 6.30
	石井仁	〃	1995. 7. 1 ~ 1997. 6.30
	渥美邦夫	〃	1997. 7. 1 ~ 1999. 3.31
	岡村静致	〃	1999. 4. 1 ~ 2001. 3.31
	鎌田哲宏	情報学部	2001. 4. 1 ~ 2003. 3.31
	市川朗	工学部	2003. 4. 1 ~ 2004. 3.31
	野飼享	〃	2004. 4. 1 ~ 2005. 3.31
	雨宮正彦	情報学部	2005. 4. 1 ~ 2009. 3.31
	中島伸治	工学部	2009. 4. 1 ~ 2011. 3.31
	高松良幸	情報学部	2011. 4. 1 ~ 2013. 3.31
	梅本宏信	工学研究科	2013. 4. 1 ~ 2015. 3.31
	高松良幸	情報学領域	2015. 4. 1 ~ 2019. 3.31
	河本映	工学領域	2019. 4. 1 ~ 2021. 3.31
	許山秀樹	情報学領域	2021. 4. 1 ~

変わりゆく図書館

附属図書館浜松分館長

許山 秀樹



各地に設置された「石碑」の調査のため、それぞれの地の図書館のお世話になることがある。図書館ごとに個性があり、図書館探訪も研究上の楽しみのひとつである。多くの図書館に何年も足を運んでいると、図書館も時代とともに変わっていることがわかる。かつてはひとつの建物に図書館が単独で置かれていたが、近年は他の施設・店舗と同居していることがある。また、窓の少ない重厚な建築がかつてはふさわしいものとして選ばれていたが、建築資材や建築技術の変化も伴って、最近では潇洒な建物も増えた。外壁をガラスに変え、また内部に木材をふんだんに使用して堅苦しさを排除し、親しみやすく開放的な施設に変貌させている。新たなすがたの図書館としては、たとえば中部地方では、岐阜市立中央図書館を中核施設とする「みんなの森 ぎふメディアコスモス」があり、また国外では台湾・台北市立図書館北投分館の美しい外観も印象に残っている。

図書館が扱う内容も、以前のものから大きく変貌している。私が大学に進学した時、図書館利用といえば、開架図書と借り出しに手間がかかる閉架図書の閲覧がほとんどだったが、現在の図書館機能はそれだけではなくなっている。図書館間相互貸借 (ILL) を利用すれば、全国の大学図書館の図書を利用することができる。「所蔵図書」という概念を変えるこの制度は、我々に大きな恩恵を与えてくれる。他にも、静岡県内公共図書館の本や国立国会図書館がデジタル化した資料も、静大図書館で閲覧・複写ができる。本だけでなく、新聞記事や論文等も検索でき、必要なものがあれば、他大学から取り寄せることも可能である。これらのものを十全に活用できたら、卒業研究は豊かなものになっていくであろう。いずれも実費がかかることがあるが、自分が他図書館に足を運んで利用することを考えれば、ありがたい制度である。

図書館は、所蔵本と閲覧室だけではない。使いこなせば、自分の研究はいくらでも豊かなものになっていく。図書館の外観・様態・機能が変化していくのと同時に、利用する私たちの学習・研究もより充実した内容に変えていきたいものである。

附属図書館

University Library